

平成24年度 鳥取湖陵高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

複数の専門学科で構成されている比較的新しい学校であることをふまえて、生徒が進路を切り開いていく力を付けるための教育指導に教職員が一丸となって取り組んでいる。一人ひとりに応じたきめ細かい指導が行われており、生徒は自信を持って学習や諸活動に取り組むことができている。

これからは、地域の活力を生み出し、地域を支え、地域の中心となって動ける人材が求められる。そのために、社会人としての自覚と責任と自主性を育てていくことが益々必要とされる。これまでの不断の努力によって教育的な成果の向上が図られてきているが、地域の専門高校として、さらなる指導の充実が望まれる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学校の特色を生かす総合選択制の実施など、生徒に多様な知識や技術を身につけさせるための工夫と実践が重ねられている。特に、生徒の主体的な学び合いを育成することによって学校の活力を生み出そうとする「学びの集団づくり」の研究では、各教職員が意欲的に理論研究・実践研究に取り組んでいる姿があり、成果が期待される。
- ② 進路を切り拓く学力の向上、社会人としての自立をめざし、少人数による指導・大学生による学習セミナー・資格検定の指導・社会人講師による指導や講演などに力を入れ、一定の成果を出せるようになってきている。
- ③ 教育相談の体制が整備されており、教職員が生徒に関する情報交換を頻繁に行って、生徒の小さな変化に対応ができるようになってきている。実際の指導においても、きめ細やかな対応がなされている。
- ④ 朝読書の推進、授業での積極的な活用、生徒による図書館活動・読書活動などにより、生徒に本を読む習慣が備わってきている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒の人格形成・倫理観の育成に関する指導は、学校教育の中だけで進めるのは難しい面がある。地域や社会と一体となって指導していくという観点を念頭に置いて、連携を深めていく必要がある。
- ② 生徒全体の指導に関することからで、一部の学科のみの取り組みに終わっているものがある。指導内容を再点検し、学科を超えた教職員同士の連携を図る必要がある。また、教職員の意識と理解に差がある指導内容もあり、さらなる共通理解を進める必要がある。
- ③ 数多くの機器設備があつて事故の危険性の高いことが予想されるので、点検・保守を十分に行うとともに、生徒には安全が最優先の指導を徹底していく必要がある。
- ④ 学校自己評価表の評価項目がやや網羅的で具体的にどんな成果を出そうとしているのかが分かりにくい。従って、目標達成のための方策には、数値目標など客観性があると同時に、総合選択制の有用性が評価できるものを設定する必要がある。
- ⑤ 全体的に学校から出す情報が少なく、学校の取り組みが外部からは分かりにくい。PTA・学校関係者や地域から学校を支援していただくために、さまざまな方法・手段を用いて学校の情報を公開する必要がある。その中の一つであるホームページは、内容の充実を図ることと更新のタイミングを工夫する必要がある。